

2021年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名: youth つなぐば

★ 団体紹介 (結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等)

youth つなぐば since2020.7

2021年度運営メンバー

- ・(代表)竹廣このは
- ・(事務局)堀田まる美
- ・(副代表)俵巧磨
- ・三上向日葵
- ・山崎瞭
- ・真田國臣



●結成理由 youthつなぐばは、ユース世代が主体となって地域や若者を盛り上げるには、学校や地域をこえてつながれるもうひとつの居場所が必要だと思い、2020年に高校生世代で立ち上げた団体です。

youth つなぐば とは

「Youthつなぐば」は、ユース世代で地域や若者を盛り上げようと活動している団体です。高校生と大学生の、住んでいる場所や地元までばらばらなメンバーで活動しています。

私たちは若い人同士で、学校とは違う空間で新たな友達と出会い仲良くなり、様々な考えを共有しながら学びあえる場を作りたいと考えています。

メンバーには楽しいから来ている人もいれば、自分の地元が過疎化していく現状を打破したいといった考えを持つ人など様々です。

思い切って飛び込んでみてください。

普段の生活でなかなか出来ないような楽しく、学びある体験ができるよう、一緒に活動しましょう。



●目的

youthによってyouthのために

1. 多様な考え方に出会い自分の可能性を広げる場をつくる
2. 学校や地域を超えた友達やコミュニティを作る場をつくる
3. 社会問題を解決する力をつける場をつくる。



youthがyouthのために

私たち若者は、今の社会に違和感を持っていたり、生きづらさを感じたり、居場所のなさを感じたりしています。そんな現状を悲観したり、大人や社会のせいにするだけでなく、自分たちから動いていくという意識を持って活動しています。まずはメンバーが、興味を持って勇気を出してきてくれた仲間居場所を作ります。私たちが大切にしている居場所とは、安心できるフラットな関係の中で、お互いに自分の意見を出し合えたり、挑戦したいことを応援しあったりして、支え合える場です

また、私たち若者には、学校や生まれた地域にとらわれて、自分の可能性を最大限に発揮できない、または自分の可能性に気づくことができない状況があります。そこで、学校や地域の枠を超えた参加者が集まって、いろんな場所でいろんな経験をしている人とともに過ごすことで、多様な考え方に会える場を作っていきます。例えば、実際に地域おこしをしている大人などに会ってお話を聞くことで、社会問題や身の回りの課題などに目を向けることができるようになり、自分たちの世代から自分たちで変えていく意識を持つことができます。

私たちは、若者自身が自分の可能性や考えの範囲を広げる場をつくることで、より良い社会をつくることに貢献できたらと考えています。



★ 活動内容（実施日、場所、目的、内容、参加人数等）

① サイクリング&まちづくりトークイベント

2021年9月19日

広島県三次市の川西地域

目的

現在進行相で過疎化が進んでいる川西地域での地域活性化の取り組みを実際に体験したり、取り組んでいる方とお話をして、問題について学び考える。

内容

① 川西地域で地域活性化のために実施されている「サイクリング」を実際に体験する

川西郷の駅からレンタルしました。サイクリングしている間、花や食べれる植物、また美しい景色など、田舎にしかなくそして車では通り過ぎてしまうようなものに出会うことができ素敵でした。特に、昔から残っている棚田と堂さんが印象に残りました。これを体験した人がこの地域に興味を持ったり、移住したいと考える人ができるだろうとおもいました。この場所の魅力を感じることができて、とてもいい体験でした。



② ほしはら山のがっこうに行き、講師の方3人からお話を聞き、そしてディスカッションする。

一人目の講師の方は、平田観光農園の会長の平田克明さんでした。父の農場を継ぐために、長野に勉強しにいき、Uターンで川西に戻ってこられた方です。

平田さんとは、少子高齢化問題についてや、夢について話しました。

子供を産みたくても養えないから産めない人たちがいることや、田舎に住めば、実は都会よりも裕福に



暮らせてることを聞きました。そして、都会で育った人は、田舎に住むイメージがつかないからなかなか田舎に来れないということも学びました。

ここから、どうしたら田舎に住む人が増えるかを話しました。その中で、都会の人が田舎に興味を向ける発信や、実際にきて体験できるイベントが増えたらいいな、広まれば、ハードルが今より下がればいいなと思いました。

また、自分は果物を作りたい夢のため、いろんな研究をたくさんしてきたこと、そして成功したこと、またみんなが夢を叶えるために今を懸命に生きていきんちゃいと熱心に話してくださいました。



二人目の講師の方は、地域団体tetotetoの延原さんでした。田舎に住みたいという思いで、Iターンで川西に来られた方です。

延原さんとは、今の素敵な田舎をどう残していくかについて話しました。

延原さんは、子供の時から自然で遊んでいた経験から、自然の中で子育てをしたいという思いで長女が1歳だった12年前に引っ越してこられたそうです。子育てをする田舎を見て回る中で、よその人を入れたくないというところも少なくなかった中で、川西地域上田町は、地域みんなが当たり前のように地域の一員として迎えてくれる場所だった、そして今移住者が増えていっていることを教えてくださいました。

地域のコミュニケーションのなかに、野菜をもらったり、さらに家の修理まで温かいものがたくさんあって、とても感動したそうです。

そして、住んでいる中で、継ぎ手がどんどん減っている現状を知り、なんとか自分が好きになった景観をつくっている「お茶畑」を残そうと、tetotetoを立ち上げました。

「今はみんなペットボトルじゃけえお茶畑に需要がないんよ、もう続けるのが難しい」

と話していた地域のお茶畑をやっている方のお話を聞いて、

「自分ができることはそんなことはないって伝えること！」

と思い、伝え続けたら今まで消極的だった声がプラスの声にどんどん変化していったのが嬉しかったと話していました。そして、街だと自分が主体ではなかったが、ここではみんなが主体になると、最後まで上田町の良さを教えてくださいました。



三人目の講師の方は、NPO法人ほしはら山のがっこうの副理事長兼ふるさと体験塾長の浦田愛さんでした。田舎に惹かれてIターンしてこられた方です。

浦田さんとは、田舎と都会の繋がりについて話しました。

上田小学校が廃校になった時、「更地にして、後世に負担にならんようにしよう」という地域の人が多かったそうです。そんな中で、都市農村交流施設を作ろうという話が出た時に、「温泉がないし、自販機もないし、有名な観光名所もないし、街灯もないし、上下水道もないし、こんな何もないところによその人が来るわけがない」と地域の方は思っていました。

でも、何もないからこそあるものがある。

例えば、星が綺麗に見えたり、地域の素敵な人との出会いがあったり、農家の畑があったり、美味しい井戸水や山水があったり。その魅力に地域の人気づいて、「小学校を残そう、ほしはら山のがっこうをつくる



う)となったそうです。

ほしはら山のがっこうでは、地域全体がフィールドになるような活動や、今の子どもたちも昔のように地域や野山の探検ができるような場所づくりを、地域の皆さんやボランティアの方たちと続けてこられています。

中にはお金にならない「シゴト」(薪割りや自分より小さな子どものお世話など助け合って暮らすためのシゴト)を体験して、そのシゴトの豊かさに触れてもらえたり、参加者が自分がやっていることで世界を作っていることを体感できるようなイベントもされていました。

そして、地域の人もそうでない人も、垣根をつくらず広げて楽しめる、みんなの故郷を作っていました。

3人の講師の方のお話を聞いて、田舎の良さを改めて感じ、また、自分から外に発信していくこと、さらに地域の中にも発信していくことの大切さを学びました。

これからもっといろいろな行事や場所、人に関わって、田舎がどう発展していくかなどをもっと学び、ずっと先まで残していければいいなと思いました。



③平田観光農園に行き「ちょうど狩り」を体験する。

②でお話いただいた平田さんのお父さんが1955年に創業された、「平田観光農園」に視察に行き、ちょうど狩りを体験しました。

「ちょうど狩り」とは、チケット制で、いろんな今実っている果物を収穫できるシステムです。

実際にやってみて、チケットをどのように使うかとか、どれが美味しそうだとか、みんなで喋って収穫していくのが、とても楽しかったです。ちょっとしたアイデアで、きた人を楽しくするのがすごいなと思いました。そして私たちも、人を喜ばせるアイデアが生み出せるようになりたいです。



全体を通して、田舎に都会の人が入りづらいという問題が大きく、過疎化が進んでいることがわかりました。

そして、その問題を深く受け止め懸命に活動をしているひとがたくさんいること、実際に田舎に飛び込んでみて、のびのび田舎で生活している人がいること、地域の人たちの自分の地域絵の意識を変えることがとても大切なこと、そんな人たちに救われた人たちがたくさんいることがわかりました。

また、田舎に興味がある人はたくさんいるのではないかと思います。なので、もっといろんなところで田舎を体験できたり、入りやすいところをもっと作って行けたらいいなと思いました。

② 京都視察研修

2022年3月26～28日



目的

- ・高校生の居場所づくりについてお話を聞き、ディスカッションをする。
- ・自分たちのこれからの活動について考えたり、見つめ直したりする。
- ・実際に活動している現地の高校生にあつて、これからの活動の参考にする。
- ・高校生と大人のつながり方について知る。

視察研修概要

- ・京都の若者の居場所作りに取り組まれている現場や、実際の若者の活動を視察し、自分たちが今何をすべきか、また何をしたいのかについて考える。また、そこにいる人たちとディスカッションを交わし、何が必要か、何ができるのかを考え、より自分ごとにしていく。考えを深める。
- ・自分たちの少し先を走っているベンチャー企業の方々にお話を聞き今の自分たちの現状を見つめ直しどう夢に繋げていくか、ディスカッションをする。

内容

① roots 京丹後市未来チャレンジ交流センター 視察、交流

<https://www.roots-kyotango.com>

roots 京丹後市未来チャレンジ交流センターとは、高校生や地域の人々が主体であることや、その人自身でいられることを大切にされた居場所作りをされている場所です。

そこで、実際に来ている高校生と、お互いに自分たちの活動紹介をしました。

その後、高校生のメンバーにrootsについて質問して教えてもらいました。

高校生のプロジェクトは、自分のやりたいことが明確になっていて、そこから実現に向けてどうしていくか、具体的に予算や、大人の繋がりまで、スタッフの寄り添いのなかで具体的になっていました。

学生のみなさん主体で、地域の方やサポートの方に出会いながら、自分の地域を活性化させていきたいという熱意を感じました。

単に高校生の居場所があるだけでなく、この場が高校生に大きな活力を与えていて、自分たちにもこんな場所が作れば良いなと思いました。そして自分自身もっと自分のしたいことに全力で向かって行動していきたいと思いました。

② まちまち案内所 視察、ディスカッション

<https://motion-gallery.net/projects/machi-machi>

「まちまちな人が混ざり合い、待ち合わせできる場所」をコンセプトに、大人から子供、移住者や観光客も気軽に寄れて、息がつけるコミュニティスペースです。

rootsに来ている高校生に案内してもらって、高校生だけで行きました。

町の中に、ヒトやコトやアイデアなどをつなげられる、おしゃれでまた行ってみたい場があるのはいいな！と思いました。私たちの暮らすまちにも、ふらっと寄れるこんな場所があったらいいです。



③天橋立観光

視察研修した京丹後地域にある、天橋立を観光して、地域を体感しました。観光地は地域資源のひとつです。いろんな資源を組み合わせながら、暮らす人や旅の人や、若者をふくめて多世代が交差していくことを感じました。



④株式会社ローカルフラッグ 視察、ディスカッション

<https://www.local-flag.com>

ローカルフラッグは、民間のまちづくり会社として、地域の内外を問わず志のある人を巻き込み、経済、雇用、人材育成などの好循環を生み出す持続可能な地域づくりを目指して活動されている会社です。

社長は、地元のために何かしたくて、地元で就職したかったけど、地元で就職したい就職先がなかったことから、起業したことを聞きました。

とても新鮮で、衝撃を受けました。

そして、地域のために何かをしたいと思わせる地域が、とてもすごいなと思いました。街中に住んでいると、故郷という観念を持ちにくく、地域のために何かをという意識もあまりないと思います。だけど、そうではなく「地域のために」と思える大人を増やしていくことも大切だと感じました。

そして、地域に寄り添って自分たちで変えていこうと思ひ活動する人が増えて行けばいいなと思いました。



⑤同志社大学 轡田竜蔵先生の研究室 視察、ディスカッション

轡田先生とは同志社大学の准教授で、社会学について研究されている方です。マツダ財団の「若者×ツナグバ」にも関わられてきたと聞きました。また、轡田先生は、今回の視察先のご縁をつないでくださった方です。視察先を決めていくプロセスでも、オンライン会議やSNSチャットで、先生のお話を聞きながら、学ばせていただきました。

実際に同志社大学の轡田先生の研究室に行って、どんな研究をしているかを聞きました。社会を構成している「ひとりひとり」が、今の時代をつくっていて、今何が起きているのか、起きていこうとしているのかを、聞き取りから読み取っていく研究の話をお聞かせいただきながら、私たち自身に起きていることの解像度を上げてみたいと思いました。

大学という場所に初めて入らせていただいて、研究の話を聞いて、自分たちが受験のために勉強をしているだけではない、学問の魅力を感じることもできました。先生の話に影響を受けて、理系だけではなく文系の魅力を感じた人がいたり、大学に行く必要はないと思っていたメンバーで、行ってみたいと思った人もいました。

それぞれこれからのビジョンができていったと思います。



研修のふりかえり(参加者アンケートより)

今、一番印象深く残っていること

- ・お会いした方々がそれぞれ、やりたいという気持ちに動かされて活動していたこと。
 - ・ローカルフラッグ
 - ・ローカルフラッグでのお話
 - ・rootsの皆さんの話を聞いて、今から会う人は、自分たちとはまた別の世界の人なんだろうなと、ラインを引いて特別視してました。ですが、今回話してみたのは、普通の高校生で、人一倍情熱があって、努力を積み重ねてきたものが形になっている方々でいい話を聞かせてもらったなと思ってます。
 - ・rootsのという場所の存在やrootsの人達の行動力。
 - ・Rootsの高校生の覚醒っぷり。
 - ・京丹後市の高校生支援体制がうまく構築されていること、関わってくれる人が大事だなあ~と思いました。稲本さんの熱意が仕組みの中で最大限発揮されていると思いました。
 - ・rootsの皆さんと話した事。
- 同世代にこんなに凄い人達がいたなんて！と思いましたし、自分にももっと出来ることがあるのでは？と思いました。
- ・youthの主體的な活動を日々サポートするセンター機能(人材、拠点、予算、地域の学校や社会とのつながり、youthプロジェクト企画に必要な予算や人材を年度途中に臨機応変に対応していく寄り添い等)
 - ・rootsの高校生たちが積極的に活動をしていっていること、みんなで高めあっていることが素敵だと思った。

二番目に印象深く残っていること

- ・ルーツの学生が人生変わったって言うていたこと
 - ・轡田先生のハート、若い人を応援する気持ちがよく伝わりました。
 - ・轡田先生の話。
- 自分のこれからの進路を考え直そうと思いました。
- ・轡田先生のファシリテーション(聞き力、構成力、人間性、知識と経験の深さ、youth世代へのフラットな関わり、学びが生まれる場づくり等)
 - ・ひろしまユースのメンバーの今の思いを聞いたこと、いろんな人に出会う中での心の変化を見れたこと
 - ・Youthつなぐ場のみなさんがあの場に自主的に参加していること

自分が影響を受けたこと

- ・社会勉強ができたのでとても良かったです
- ・前より経験や色んなものを吸収したい！とゆう意欲が増え、色々なものに参加賞と思った。
- ・高校生という短い時間だけれども、人生の機転となる出会いが数多く待ち構えている時に、勉強ばっかせんと、色んな世界を見ていけたら、人生がより充実したものになると確信しました。
- ・高校生の力を引き出す大人のあり方
- ・どのように情報を伝えたら若者の行動変容につながっていくのか、改めて考えました。
- ・全部です
- ・youthつなぐばの活動のおかげで、出会えた学び。未来をつくる若者の姿。

新たな発見

- ・高校生も地域と繋がり、人と繋がることで、夢を実現できるのだということ。
- ・意欲のある学生は声をあげないだけで一定いること
- ・ほしはらは、楽しい人達がいて、楽しい場所ぐらいにしか思っていなかったけど、地域のことを考えて積極的に活動していることを知りました。そこが今回の1番の気づきかもしれません
- ・主体性や自発性を基にすると、大きく成長するんだなあ...という気づき
- ・思いを形に、形にしたら発表する。発表を次の活動につなげる。サイクルの継続が大事。
- ・発見というかもっと自分の好きなことに全力で取り組もう！と思いました
- ・高校生自身が切り開くプロジェクトとオトナ世代や社会の関わりをつなぎ手(カウンセラーや寄り添い型)の存在の必要性。社会には高校生には出来ないこと(ホテルやバス予約、銀行口座開設、活動への保護者の承認、おこづかい額を超える出費など未成年だけで出来ないことの関門、学校の校則や課題や試験期間)の多さで、オトナより物事を進めるのが大変なこと。

今後生かしたいこと

- ・何事も経験

- ・勉強以外の面で、小さくても目標を持って、これからの学生生活を過ごしていきたいです
- ・子供たちが持って生まれたものを発揮できるよう、自らの在り方を見直したい
- ・ニーズを引き出して応援できると良いです。
- ・とりあえず、もっと周りの大人に頼ろうかなと思いました。
- ・ご縁を生かしたい

今後やってみたこと、あればいいと思うイベント

- ・地域の活性化を考えるワークショップ

地域を見つめ直すワークショップ

- ・市内で、こんな活動してますよというものを、どんな形でもいいので出来たらいいと思います
- ・場づくり

・今は自分のしたい事で精一杯なのでイベント事にはあまり参加出来ないかな～と思っています。

ですが、今回のような他県の高校生や企業の方など関わる機会があれば嬉しいです！

・今回のような社会を生きる方々の活動を高校生が主体となって聞き取る場。高校生自身がやりたいことを探求できる場。

視察研修を通して

京丹後市の高校生支援体制が上手く構成されていると感じました。

また、お会いした人それぞれが、「やりたい」という気持ちに動かされ、熱意をもって活動されていたことに感動しました。

場所の存在や、人の行動力が本当にすごくて、とても影響されました。

高校生という短い時間の中でも、人生の転機となる出会いがたくさん存在していて、そんな瞬間を勉強だけで終わらせてしまわず、いろんな世界を見ていけるような大切な時間にしていければ、もっと人生が充実していくと感じました。

そして、視察する中で、大人たちの地域に対する考えにふれることができ、とてもよかったです。

また、高校生7人、大人5人が興味を持って自主的に参加したこと、実際に参加して、もっと活動に関わってみたい、自分に今できる事がなんなのかを考えていきたいと思ったこと、そして、新しい視点を知れて、これからどうするか考え直したいとか、もっといい方向に行けそうだとかを話していて、この研修を行ってとてもよかったですと思いました。

私たち高校生だけでは捻出できない旅費などをご支援くださったマツダ財団さんに、改めて感謝しました。

★ 実施に伴う効果（どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。）

活動報告内に記述しました。

★ 苦労した点、今後の課題、発展の方向性など

年間を通して



まず、高校生だけで活動をする無理をととても感じました。
例えば、銀行口座開設、バス、ホテルの予約、活動の保護者への承諾、お小遣い額を超える出費や、学校の校則や課題、試験など。たくさんの方で、大人よりも物事を進めていくのがとても困難だという事がわかりました。
なので、たくさん大人を味方につけていきたいです。

また、自分たちの活動を発信することの大切さをいろんな場所で学びました。
今年はまだできていないので、これからは、もっとこんな活動があることを多くの人に知ってもらい、また素敵な縁が広がって行けばいいなと思いました。

きっと声はあげていないけれど、あげられていないけれど、意欲のある若者がいると思います。そんな人たちを拾っていけるような場所を作っていきたいです。

また、そんな人だけではなく、ただ暮らしているだけの人でさえ巻き込んでいけるような力をつけていきたいです。

たくさんのつながりがあって、夢の実現につながっていると思います。
小さなつながりから大きなつながりまで、たくさんの宝物と出会えるような活動をこれからも、今まで以上に取り組んでいきたいです。



★ 若者×ツナグバへの提言（改善につながるヒント、要望）

・全体でのミーティングの時間帯に、オンライン会議の環境をどうするかなど、苦労しました。私は遠方の学校に通っているので、保護者に支援してもらい、何回かWi-Fiがあるビジネスホテルを予約してもらって、会議が終わって帰ると深夜になってしまうので、宿泊して会議に参加する方法しか見つけませんでした。

・助成金を受け取れる銀行口座をつくらうといくつか回ってみました。高校生だけの団体では駄目でした。会計事務をNPOに支援してもらおうなど、苦労しました。

・若者×ツナグバに今回参加している団体さんが、大学生以上の大人の団体さんばかりで、キラキラしていて、自分たちの悩みや課題をなかなか共感してもらうにはどうしたらいいのか、なかなかわかりませんでした。そんな中で、高校生の「ツナグバ」の難しさや、場の意味の深堀が出来ました。

・メールで相談するのはハードルが高かったので、勉強になったけれど、LINEで出来る私たちの世代には、ハードルが低くなって、相談しやすいかなと思いました。

・マツダ財団さんの方で、井上さん以外の方ともつながれたらいいなと思いました。